

ピアノを弾く大統領

2005(平成17)年10月10日鑑賞<OS 劇場 C・A・P>

★★★★



監督・脚本=チョン・マンベ/出演=アン・ソング/チェ・ジウ/イム・スジョン/イ・ボムス (エスピーオー配給/2002年韓国映画/93分)

第3章

映画館の暗闇で人間観察

……見逃していた韓国映画の傑作の1つをやっと観賞。『大統領の理髪師』はコメディタッチだったが、実は本来かなり怖い物語……。それに対してこの『ピアノを弾く大統領』はあの名作『ローマの休日』(53年)の変形バージョンで、ラブ・コメディに徹したもの。私の大好きな映画であり、私のカラオケの十八番の1つアンディ・ウィリアムスが歌う『慕情』が、この映画のテーマ曲とされていたことをはじめて知ってビックリ……。イギリス王室では女王と新聞記者との恋愛は夢物語だったが、イケイケどんどんの韓国では、アン・ソング扮する大統領だってイザとなればチェ・ジウ姫扮する教師と……。郵政解散で大勝利をおさめた小泉純一郎総理も独身だしオペラや歌舞伎そしてX・JAPANが大好き。息子、孝太郎氏の嫁探しも必要だが、日本でも『〇〇をする総理大臣』という映画を、来年9月までの任期中に誰かがつくってみては……？

これは何としても……

アン・ソングとチェ・ジウが共演するこの『ピアノを弾く大統領』は是非観たかった映画だが、2005年6月25日から7月29日までの間、天六のホクテンザで開催された「韓流シネマフェスティバル2005」では、パンフレットには掲載されていないが残念にも上映プログラムからは外されていたもの。その映画が、今回2005年10月8日から10月14日までOS劇場C・A・Pで開催されている「韓流シネマフェスティバル2005」で上映されることになったため、これは何としても……。

日曜日の朝の日課と決めているフィットネスクラブでの運動を予定どおり昨日9日に済ませた私は、今日10月10日は祝日だから、朝10時のモーニング・ショーにいそいそと……。

アメリカの大統領モノ、日本の天皇モノ、そして中国は？

アメリカの大統領を描いた映画は、実在の大統領を描いたものでは、『大統領の陰謀』(76年)、『JFK』(91年)、『ニクソン』(95年)、『13デイズ』(00年)、『華氏911』(04年)がある。さらに架空の大統領を自由に描いたものでは、『ザ・シークレット・サービス』(93年)、『デーヴ』(93年)、『アメリカン・プレジデント』(95年)、『インデペンデンス・デイ』(96年)、『ザ・ターゲット』(96年)、『マーズ・アタック!』(96年)、『エアフォース・ワン』(97年)、『ウワサの真相ワグ・ザ・ドッグ』(97年)、『目撃』(97年)、『パーフェクト・カップル』(98年)がある。これだけ多くの大統領映画が製作されているのは、ある意味でアメリカの民主主義の成熟度を示すもの……？

日本では、明治天皇を直接映画に登場させることは長い間タブーとされていたが、それでも、『明治天皇と日露大戦争』(57年)や『明治大帝と乃木将軍』(59年)などがある。しかし、これらもどちらかと言えば国策映画に近いもの……？

他方、中国でも「毛沢東」や「周恩来」を描いた映画が一時期たくさんつくられたが、これらはすべて中国共産党を讃美する国策映画で、1980年代に始まったチェン・カイコー 陳凱歌とチャン・イーモウ 張藝謀を代表とする中国第5世代監督の登場以降は、そんなつまらない映画はつくられていない……。

大統領映画3作の比較は……？

これに対して、韓国の大統領を直接描いた韓国映画が、『大統領の理髪師』(04年)とこの『ピアノを弾く大統領』。前者は1963年以降の朴正熙大統領による軍事独裁政権下の時代を描いたもので、コメディタッチながらも、まかりまちがえば「大統領の理髪師」も政治闘争に巻き込まれて失脚(?)してしまう危険もあり、それがあながちブラックユーモアではないと思わせるコワイ映画……。

他方、日本映画ながら金大中大統領の金大中事件を真正面から描いたのが、阪

本順治監督の『KT』（02年）だが、これはもっと生々しい権力闘争をテーマとしたものだった。

しかし、この『ピアノを弾く大統領』は、南北分断以降の現実の韓国の政治情勢に照らし合わせながら考えれば、全くありえない、おとぎ話のような理想的な(?) 大統領のラブストーリー。

したがって、どの時代なのかと現実的な詮索をすることはこの映画に限っては全く無意味で、ありえないけれどもロマンティックな大統領の恋物語として楽しまなければダメ……。

『慕情』を知っていることが前提条件！

大統領の恋物語としてこの映画を理解し楽しむためには、ウィリアム・ホールデンが主演したあのハリウッドの名作『慕情』（55年）を知っていること、そしてまたアンディ・ウィリアムスが歌ったその主題曲『慕情』を知っていることが前提条件！

香港のヴィクトリア・ピークを一躍有名にしたのが映画『慕情』だが、この映画を理解するために必要不可欠なのは、あの主題曲の『Love is a Many Splendored Thing』＝『恋はすばらしきもの』という歌詞（タイトル）を知っていることだ。ニューミュージック（今やこの言葉自体が古い……?）、演歌、ナツメロから、中国・韓国バージョンまで何でもござれの私が、カラオケ会場で英語バージョンになった時に歌う十八番が①エルヴィス・プレスリーの『愛さずにはいられない』、②ブレンダ・リーの『世界の果てに』そして③アンディ・ウィリアムスの『慕情』。私も大学時代の一時期、ピアノを弾きたくてちょっとだけ練習したことがあるが、それは所詮ムリな話……。しかし、大統領の激務をこなしながらピアノで『慕情』を弾くなんて、さすがに韓国俳優の至宝アン・ソングが扮する大統領はすごい……？

チェ・ジウ姫の評価は……？

テレビドラマ『冬ソナ』（02年）で一大ブームを巻き起こしたチェ・ジウは、『真実』（00年）、『美しき日々』（01年）、『天国の階段』（04年）などのテレビドラ

マの出演が多いうえ、悲劇のヒロインとして「泣き」の演技を売りモノとしている女優……？ 韓流ブームに大きく寄与したおかげで、彼女は日韓国交正常化40周年となる今年2005年には、日本の女優木村佳乃とともに観光交流大使をつとめている。しかし、私なりに芸能番組から得ている最近の情報では、彼女はお金にならない日韓観光交流大使の仕事にはあまり熱心でないとか……？ 大キャンペーンを経て今年9月17日日本で公開された『四月の雪』は、日本ではヒットしているものの、韓国では全然ダメ……。

ということで、あのヨン様ことペ・ヨンジュンの評価とともにチェ・ジウ姫の評価も今ひとつ微妙……？

映画では意外とコメディアン

この『ピアノを弾く大統領』への出演後、2年ぶりに彼女が映画出演したのが、『誰にでも秘密がある』(04年)。ここでは、主役の「完璧男」イ・ビョンホンに恋をする三姉妹のうちの1人というちょっと格下の(?)位置づけだったが、本好きでガリ勉そして男には全く興味のない次女役をコミカルに演じていた。そのコミカルな役柄の基礎が、2年前のこの『ピアノを弾く大統領』での演技にあったことを、今日私をはじめで知ることができた。

『誰にでも秘密がある』は女優陣の中では三分の一分の出演だったが、この『ピアノを弾く大統領』では、女優として100%の出演。したがって、彼女のコメディタッチの魅力が全編に……。

とはいっても、大統領とその娘の担任教師との間の恋がマスコミの手によって写真に撮られ、一大スキャンダルとなってからは、今までのように地のままのノー天気な行動(?)をとることはできなくなったうえ、大統領を苦境に追いやった責任を痛感せざるをえなくなったのは当然。

さらに、自分自身の教師としての仕事にもケリをつけなければならず、彼女は失意のうちに学校を辞めて田舎へ戻ることになったのだから、この時期の彼女に「笑い」がなくなったのは当然。しかし、そんな落ち込んだチェ・ジウの姿はほんの少しだけで、最後は思いがけないハッピーエンド……。

もちろんそんなことは現実にはありえない想定が、それを可能とするのが『ロ

ーマの休日』(53年)とは違う韓国バージョン風のおとぎ話……？

よくわかる大統領家の教育問題……

どこの学校にも、どこのクラスにも問題児の1人や2人はいるものだが、女子高に転動してきたチェ・ウンス(チェ・ジウ)の前に立ちふさがった問題児がアン・ソング扮するハン・ミヌク大統領の一人娘のハン・ヨンヒ(イム・スジョン)。幼い時に母と死に別れたうえ、父親は政治家として忙しいため、ほとんど彼からかまってもらったことのない彼女が、1人家の中で語りかける相手はぬいぐるみしかいなかったとすれば、その性格がゆがんでくるのは当然……？ そのうえ、思春期になった時には父親が大統領となれば、彼女に対して意見を言ったり怒ったりする人間はどこにもおらず、わがまま放題になるのも当然……？

自分の娘すらまともに教育できなくて、何が国の政治であり、国の教育問題か！ とハン・ミヌク大統領に言いたいのは山々だが、現実問題としてはなかなかそうもいかないことはよくある話で、大統領家の教育問題は実によくわかる身近なもの……。

転任初日から大騒動が……

映画の展開を観ていると、このチェ・ウンスという教師は顔はかわいいものの、いくつかの学校をクビになり、転勤に転勤を重ねているらしい。それは仕方ないとしても、問題はそれが本当に落ちこぼれ教師だからなのか、それとも出るクイは打たれるためなのかということ。

ウンスの場合は、どうも後者のようで、一介の国語教師ながら生徒を思う熱い気持が転任初日から爆発！ ヨンヒの先生への対応の仕方が悪いのは親のせい、と決めつけたウンスは、親の出頭を命じるべくヨンヒから聞いた電話番号に電話を入れたのだった……。

警護の車を連ねて学校へやってきた保護者であるハン・ミヌク大統領に対してさらにウンスが命じたのは、娘にかわって父親がやるべき宿題。その宿題とは、「漢詩の黄鳥歌を100回書いて提出すること」というものだった。さてハン・ミヌク大統領はどのような対応を……？

大切なのは本音のぶつけ合い

このようにウンスは何事も真正面からぶつかり、多少の抵抗があってもそれを乗り切って一気呵成に進んでいくタイプ。それをまともに観ているとハラハラドキドキの連続だが、ヨンヒをひっぱたいたり、ヨンヒと一緒にチャレンジする万引きや大統領と一緒に決行する警護からの脱出劇などは、それなりに合理性のある本音の行動、それともその場の思いつきだけの衝動的行動……？

その評価は人それぞれだろうが、少なくとも彼女はそれが最善の道だと信じて実行していることはたしか。結果的にいろいろと誤解を生んだり、問題を引き起こすことになるにしても、何でも「コトなかれ」主義で、「長きに巻かれろ」の風潮になっている昨今、こんなウンスのような熱い心での本音のぶつけ合いが必要なのでは……？

イ・ボムスは特別出演

この映画の登場人物は基本的にハン・ミヌク大統領とウンスの2人で、そこに一人娘のヨンヒが味付けをする程度のシンプルな配役となっている。もちろん、他にも保守派丸出しの立場で登場する校長先生や大統領を警護するスタッフたち、そして脱出した大統領とウンスを匿う人間味タップリの居酒屋のおやじなどが登場するが、それはあくまで基本ストーリーを程よく盛り上げていくための潤滑油としての役割だけ……。しかし、1人だけ名前の売れた若手俳優が2つのシーンだけで特別出演しているので、お見逃しのないように。

その第1は、冒頭、庶民の生活を実感するべく自らホームレスに変装していたハン・ミヌク大統領が、警察官から職務質問されるシーン。後ろにある大きな看板と同じポーズをとる大統領の姿を見て、あっと驚き、最敬礼する警察官を尻目に、「お前がハン・ミヌクだったら、俺はキム・ジョンイルだ」と言って大統領の頭をぶん殴るホームレス男を演ずるのが、『アナーキスト』（00年）、『ジャングル・ジュース』（02年）、『オー！ ブラザーズ』（03年）、『シングルス』（03年）で、個性的な役者ぶりを発揮していたイ・ボムス。

もう1つは、映画のラスト近くに登場するが、これは見逃しても差し支えない

もの……？ しかし、冒頭シーンはハン・ミヌク大統領の人柄を表現するための大切な導入部だから、しっかりと見分を……。

日本でも小泉総理は格好の素材

アン・ソング扮するハン・ミヌク大統領は独身で娘1人という境遇だが、これはあくまで架空の設定。現実の韓国の大統領を素材にしたのでは、『大統領の理髪師』や『KT』のようにそれぞれあまりにも生々しすぎて、こんなラブコメディ風の大統領モノをつくれぬのは当然。しかし日本では……？

アメリカのクリントン大統領については実習生を相手とした不倫物語が一世を風靡した(?)から、日本でも女性問題ですぐに総理の座をファイにしてしまった、かつての宇野宗佑総理の女性スキャンダルをテーマとした映画はつくれるかもしれない。しかし、そんなものはどうせあまり面白くないはず……。

それよりも、9月11日の総選挙で歴史的な大勝利をおさめた小泉総理は映画化の絶好の素材では……？ ちなみに、小泉総理も独身だし、息子の孝太郎氏は今芸能界で活躍中だから、女性問題にはコト欠かないはず……？

ハン・ミヌク大統領がピアノなら、小泉総理はオペラ、歌舞伎の知識で対抗し、さらには大好きなX-JAPANの曲にチャレンジしてヴォーカルでもやってもらっては……？

来年9月まであと1年の自民党総裁としての任期を自分で厳しく限定しているようだが、そんな映画がホントにつくられて人気を博せば、日本の若者たちから、さらに総裁・総理の延長コールが巻き起こるかも……？

2005(平成17)年10月12日記